

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873100903
法人名	社会福祉法人 博友会
事業所名	フロイデグループホーム桂
所在地	茨城県東茨城郡城里町上阿野沢545-1 (電話) 029-289-2040

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年6月6日	評価確定日	平成20年10月20日

## 【情報提供票より】(平成20年5月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	13.0 人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有( ) 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4)利用者の概要( 5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 博仁会 志村大宮病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周囲に山、川があり閑静で自然豊かな環境に恵まれている。事業所の敷地は非常に広くかつ見晴らしもよく、朝夕の日差しがホーム内に入り、木をふんだんに使った和風の事業所は暖かな雰囲気にも包まれる。周囲には梅畑や茶畑もあり季節の収穫が利用者とともに楽しめる。近隣は農村地帯でご近所も遠くに位置しているが独自の工夫で近隣への密接な関係を維持し、地域に開かれた事業所となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	栄養面での管理について指摘があり、特に水分の摂取状況については、個別の記録に飲水量を記載し利用者個人の水分摂取量のほか食事が簡単に把握できるよう書式を作成し把握に努めるように改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や前回の評価結果は、家族や来訪者に関覧が可能な状態をとり、今回の評価に関しては職員が共通理解のもとに取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政、地域、職員などの参加により問題点や利用者の状況、イベントの告示などを行い定期的に行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情は、家族会を開催した際に直接聞き入れるなどし、管理者や職員が直接対応する形態をとっている。苦情や意見に関しては、その場での対応や事業所内での対応が可能な場合は、早めの改善を心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携では、事業所独自の工夫で地域に密着した事業所となっている。農村地帯で地域への啓発にとっても努力され地域の理解もかなり高いものとなっている。また地域での催し物には、ブースを作り介護相談窓口などを設置するなど現在も継続して啓発に取り組まれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を地域やボランティアにも理解してもらえるようパンフレットを地域に配布し啓発に取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の年齢層や経験に応じて理念が浸透できるよう、ネームに入れたり、申し送りで話をしたりするなどし、職員が理念をもとに利用者にケアが提供できるよう配慮している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	農村地帯という特別な地区で、地域に密着するために商工会に入会するなどし、地域の情報を積極的に入手して地域のイベントに参加したり介護教室などを開催して、地域との交流を絶やさないう工夫し努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に内部会議を開き改善に取り組むよう工夫している。		次回からの外部評価への取り組みとして共通理解のもと職員全員の自己評価への取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政地域の代表とともに定期的に運営推進会議が開催されている。	○	今後の運営推進会議の意向と身近な家族からの代表を選考し会議への参加を促すよう工夫されたい。

茨城県 フロイデグループホーム桂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほか、行政へは管理者が直接足を運び情報の収集と啓発に取り組まれ連携を絶やさぬよう努力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所独自の通信を毎月家族へ送付したり、利用者の体調の急な変化等に対しては、電話での緊急連絡をこまめに行うなどし、家族に利用者の状況が把握できるよう心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが活用までには至っていない。家族への直接的な意見の聴取がケアの現場で行われている。苦情は管理者の管理の下苦情委員会などに提出する仕組みとなっており、改善への取り組みが密に行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者は少なく職員の移動による利用者へのトラブルは出ていない。法人内での内部移動はケアの向上目的以外では行われていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育は法人内で徹底されており、スタッフヒアリングからも非常に充実しているという声が聞かれた。外部研修は基本的に出張扱いとされ職員のスキルアップに事業所が積極的にバックアップする方式となっている。またチャレンジカードを職員一人一人が記入し個人の目標が具体的になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所にて勉強会や情報交換を行っており、外部の事業所も参加できるよう門戸を開いているが現在ではあまり交流がない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族には見学にきてもらうなどして、事業所の内容を理解していただいた上で利用につながるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所全体で環境整備へ積極的に取り組み利用者にも参加を促し利用者に教えてもらいながら活動している。また男性利用者には外での活動に対し役割がもてるよう工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動観察の中での気づきに対しカンファレンスやミーティングを行い本人の意向や思いを職員全体で把握しケアが提供できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族面会時などを積極的に利用し計画の説明と理解、情報の交換などを行い計画に反映できるよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスなど記録しその内容をもって計画に反映出来るようにしている。また見直し期間などに不備が無いよう独自に工夫したチェックシートなどを利用し見直しと計画への反映が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊やボランティアの受け入れ、地域の住民への門戸の解放など、事業所の機能を生かした支援も積極的に行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を第一に考慮し、かかりつけ医の受診が可能になっている。また眼科や歯科なども専門医に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に重度化・終末期など医療依存の高度な利用者に対しては、家族等と相談し連携の特別養護老人ホームなどにスムーズに入所出来るよう配慮があり当事業所での受け入れや終末期の対応は行われていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体でプライバシーマークを取得するなどし利用者のプライバシーの保護に徹底している。ボランティア来所の際などにも移動範囲を限定するなど利用者のプライバシーを保護する姿勢が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の時間を大切にするために職員の業務の時間設定はあるが利用者の時間は個人の自由となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とともに家庭的な雰囲気の中食事の時間がある。食事の簡単な作業を利用者に手伝ってもらったりまたおやつを一緒に作るなどして食への配慮が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のペースを重視し入浴の支援が行われている。利用者の状況や環境に応じて言葉かけを行うなどタイミングを合わせた支援が提供されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶摘みや梅畑での収穫をしたり、今後は、夏野菜畑など計画しそれぞれの利用者が役割を持ち生き甲斐を感じながら生活を楽しめるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する機会を設け利用者の状況に応じて外出が出来るよう配慮している。また日々の散歩などを取り入れ近隣の住民との交流をもてるよう工夫している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	窓や玄関も解放され利用者が自然と出入りできるよう支援している。夜間は防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回消防署立ち会いの下避難訓練や緊急対応の訓練が行われている。	○	大規模災害など避難場所など職員が共通理解し災害への配慮に努力されたい。また事業所独自の災害用備蓄品なども今後検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	独自の書式を利用し、利用者個人の栄養状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花や今を伝える物品を数多く設置し、季節感のある暖かな雰囲気的家庭的になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洋室和室の設定があり利用者の希望に添える形をとっている。また家具などは家族の協力の下、馴染みの物品を設置するなどし、その人らしい空間作りが工夫されている。		